



「^{さかな}ツツノオトシゴ」は魚なの

ヨウジウオという^{さかな}魚の^{なかま}仲間

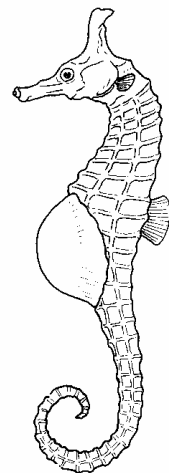
ツツノオトシゴは、たいへん^か変わった^{からだ}体の^{かたち}形をしていますし、いつも^{みず}水の中で、^{かい}海そうなどに、しっぽを^たからませて、^{すがた}立ち姿^{さかな}なので、魚^みではないように見えます。

でも、ヨウジウオという^{さかな}魚の^{なかま}仲間^{ちい}で、小さいけど、ふくらんだおなかの^{した}下に、はらびれ（^{しゅるい}種類^{せなか}によっては^せない）、^{せなか}背中に^せ背びれ^{さき}をもっています。おびれは、^ま先が^ま巻きつけられる、^{なが}長い^{へん}しっぽに^か変化^{およ}してしまっています。泳ぐときは、^{からだ}体を^せななめに^せして、^せ背びれ^{さかな}を^か動か^し、^{うご}ゆっくり^{すす}進みます。体の^{なが}長さは、10センチメートルぐらいです。

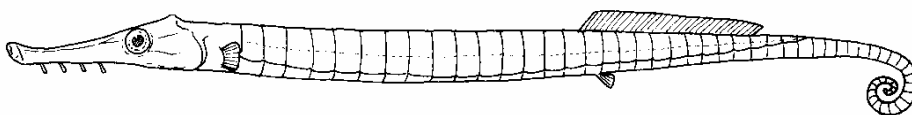
オスが^こ子どもを^う産む^みように見える

このヨウジウオの^{なかま}仲間^{とく}の特ちょうの一つは、たいいてい、オスが、おなかに^{おお}大きな^{いくじ}育児^うの^{いくじよう}う（^う育児用の^{ふくろ}ふくろ）をもっていることです。メスが^う産んだ^{たまご}卵^なを、この中で^{なか}ふ化^かするまで^{まも}守り、^こ小魚^{うお}になったら^{そと}外へは^ななすのです。夏の^{なつ}初め^{はじ}ごろ、オスの^{いくじ}育児^うの^{あな}うの^{あな}穴から、1^{ちい}ぴきずつ^う小さい^{そと}ツツノオトシゴが^で外へ^で出てくる^{ようす}様子は、まるで、オスが^こ子どもを^う産んでいる^みように見えます。

^{うま}馬に^に似た^{かお}顔の、^{ほそなが}細長^でくつき^{さき}出した^{ちい}先に、^{くち}小さい^{くち}口があり、^{プラ}プランクトン^{ちい}や^{さかな}小さい^た魚^たなどを^た食べています。（監修・安部 義孝）



ツツノオトシゴ



トゲヨウジ（ヨウジウオの仲間）

